

はじめに

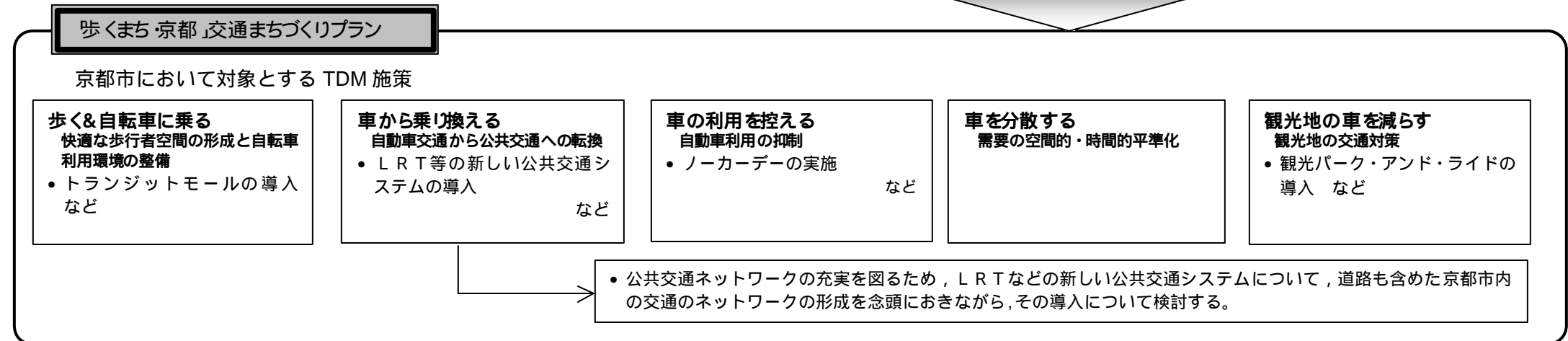
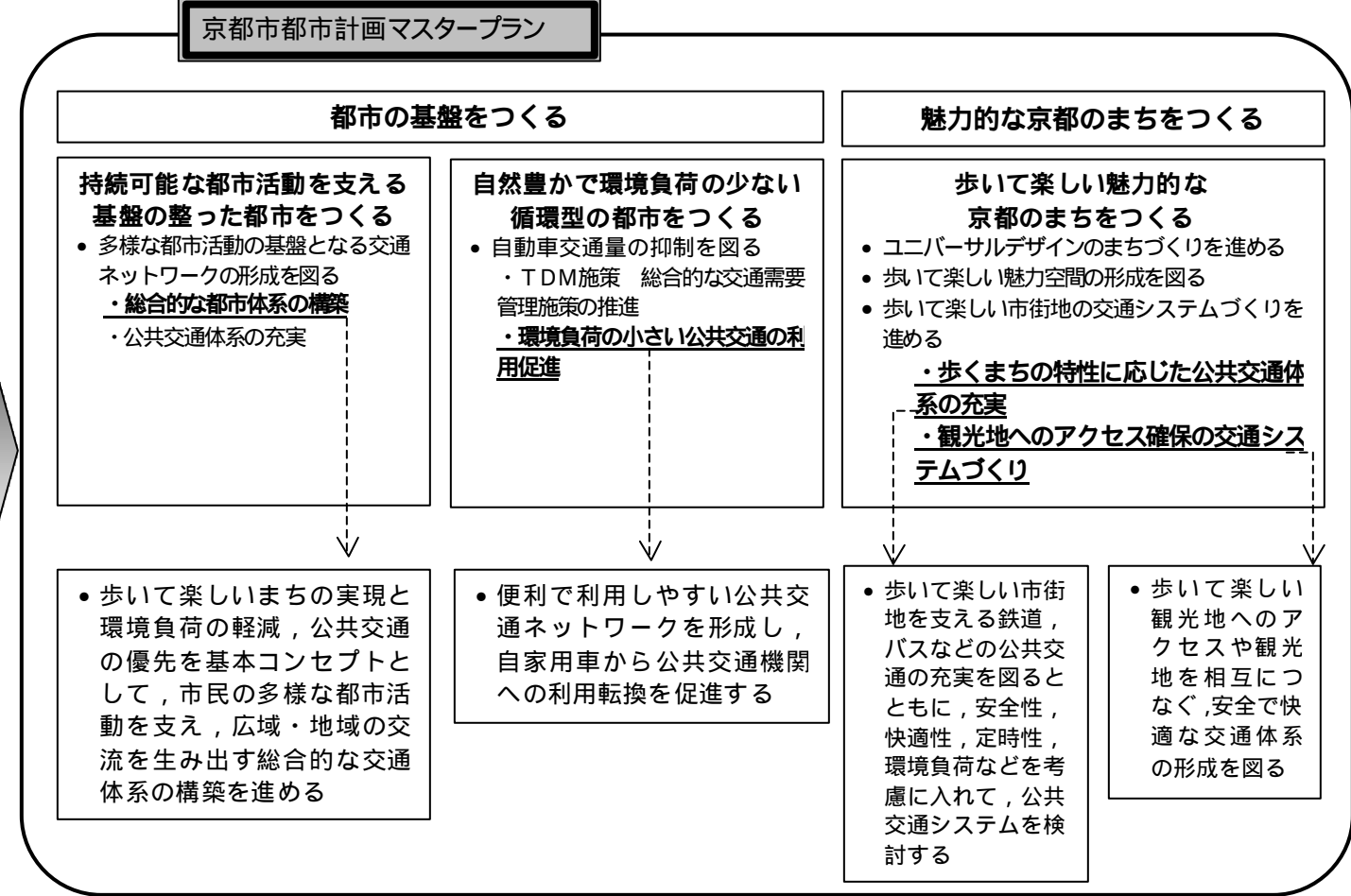
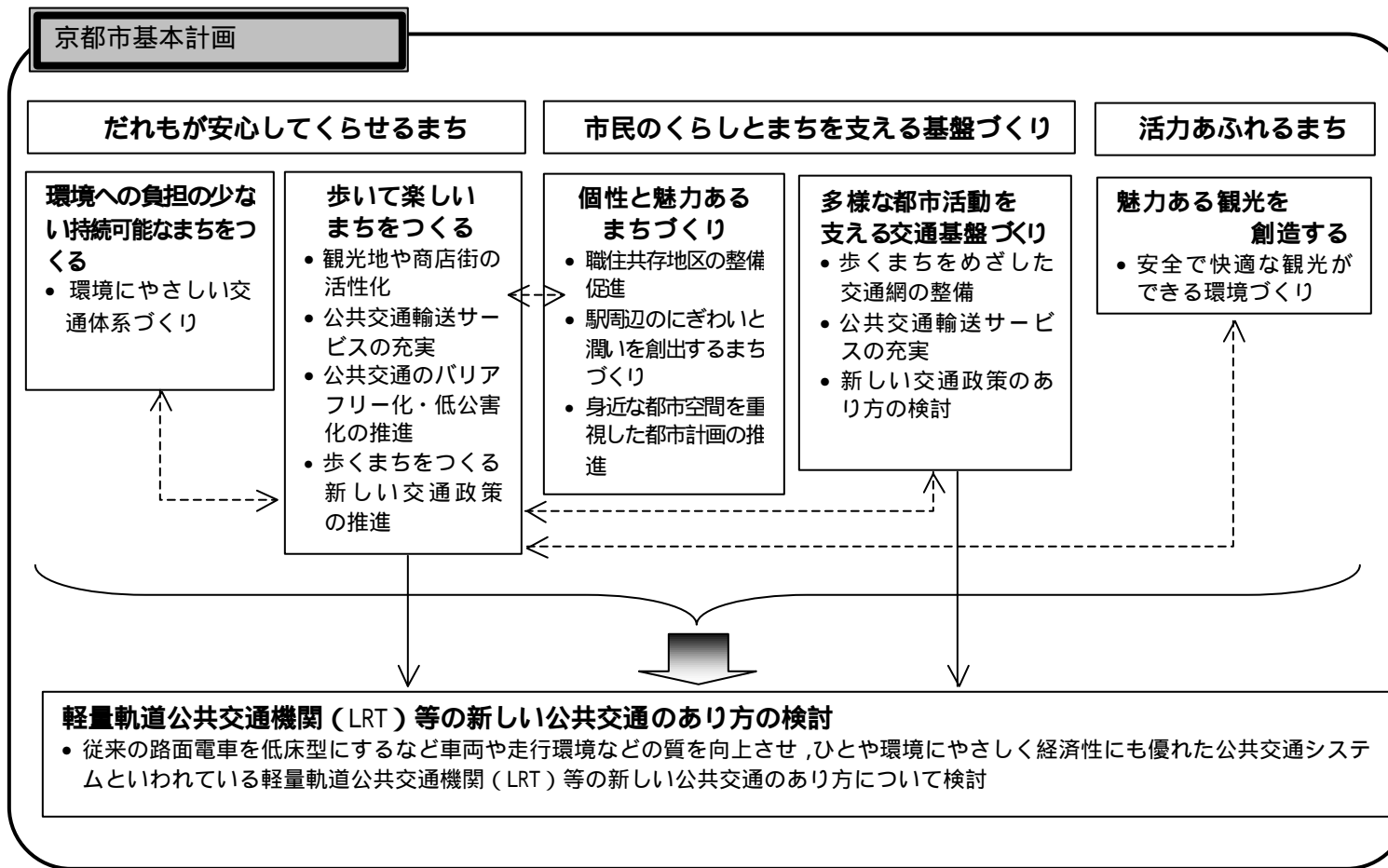
- 本調査の目的は、京都市にふさわしい公共交通ネットワーク実現のため、L R T等の新しい公共交通システムの導入に係る技術面や導入のあり方などについての検討である。

- 京都市の今後の方向性を示した「京都市基本計画」（以下、「基本計画」という）においては、「環境共生型都市・京都」や「歩くまち・京都」などの理念が掲げられ、そのための施策として、新しい公共交通のあり方の検討が挙げられている。
- また、この下位計画である「京都市都市計画マスタープラン」（以下、「都市計画マスタープラン」という）や「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」（京都市T D M施策総合計画）（以下、「交通まちづくりプラン」という）の中にも、新しい公共交通システムの導入の検討が位置づけられている。
- 京都市においては、都心地域における交通渋滞、観光シーズンにおける交通問題、鉄道駅間もしくは鉄道駅とバス停間のアクセスの悪さなどの公共交通ネットワークの連携不足など、多くの交通政策上の問題を抱えている。その中で、「基本計画」に示された今後のまちづくりの方向性に基づき、ひとと環境にやさしい公共交通ネットワークの構築が求められている。
- 本調査は、京都市にふさわしい公共交通ネットワーク実現のため、L R T等の新しい公共交通システムの導入に係る技術面や導入のあり方などについて検討することを目的とする。
- なお、この調査を進めるに当たっては、より具体的に課題を抽出するため、観光客の移動支援や交通拠点間の連絡強化などの観点から7路線を設定し、各路線について、一定の前提条件の下、自動車交通など他の交通手段や沿線住民に与える影響を分析するとともに、需要予測や整備費用及び採算性などの検討を行う。

1 新しい公共交通システムの導入検討の背景

(1) 上位計画からの整理及び市民などの動き

- 「基本計画」及びそれを受けて策定されている「都市計画マスタープラン」「交通まちづくりプラン」の中に、L R T等の新しい公共交通システムの導入の検討が盛り込まれている。
- また、市民や経済界などにおいて、L R T導入に向けた動きが活発化している。

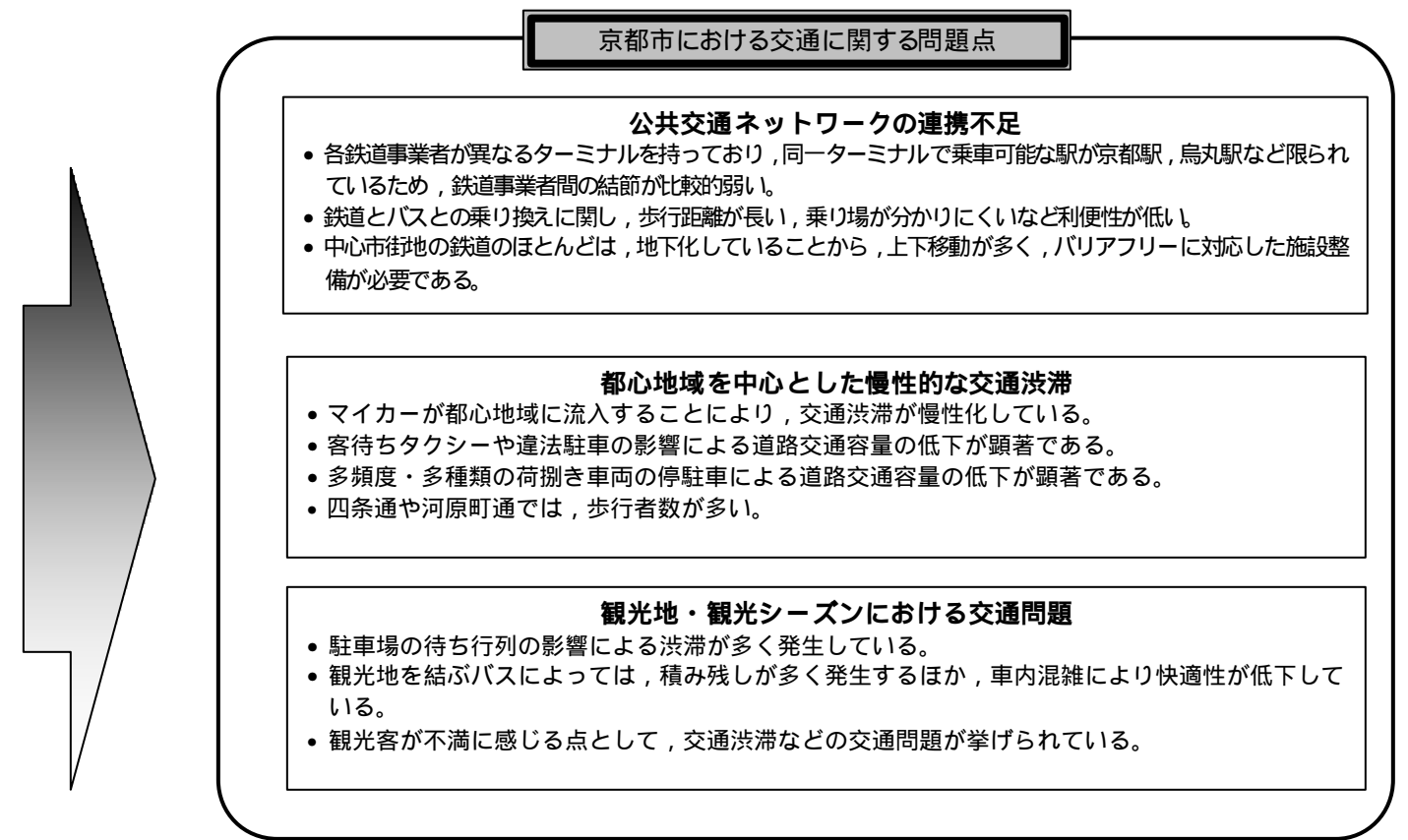
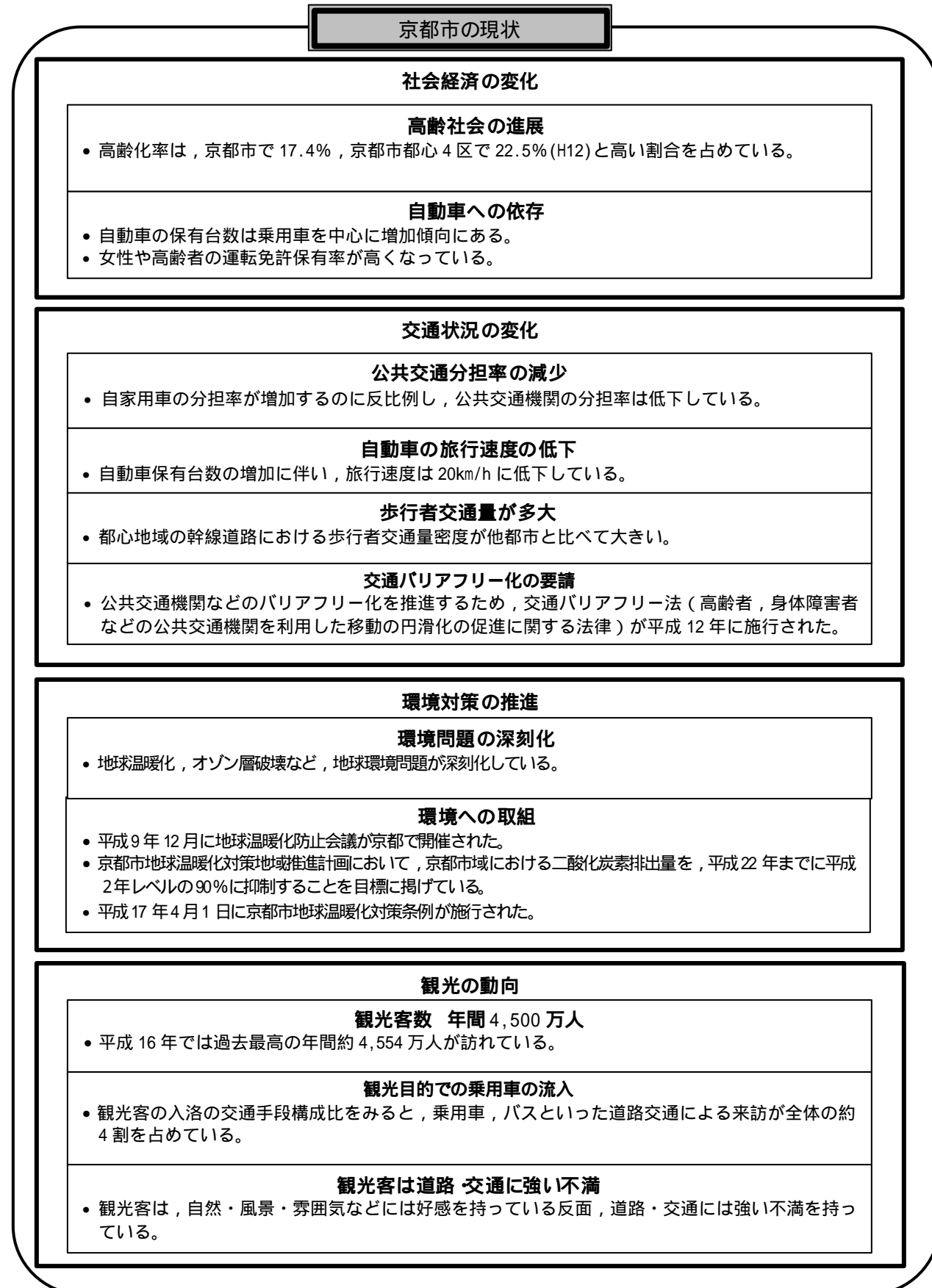


近畿圏における望ましい交通のあり方（近畿地方交通審議会答申第8号）

- ・LRT（Light Rail Transit）は、地域内を移動するに当たり、快適性、利便性に優れ、誰もが利用しやすい交通手段である。公共交通機関の充実と自動車交通の抑制を一体的に推進し、環境に配慮したまちづくりに資すること、高速鉄道と比較して建設コストが低廉であることなどから、関係地方自治体などにおいて、その導入の可能性などにつき積極的に検討が進められている。
- ・堺市、滋賀県南部地域、京都市、神戸市、尼崎市において、LRTの導入の可能性につき検討を進める。

(2) 京都市の現状と交通に関する問題点

- 現在、京都市では、高齢社会の進展や自動車への依存による社会経済の変化、公共交通分担率の減少及び自動車の旅行速度の低下などの交通状況の変化が生じている。
- こうしたなか、公共交通ネットワークの連携不足や都心地域における交通渋滞、観光シーズンにおける交通問題など、多くの交通政策上の問題を抱えている。



写真中の自動車交通による通過人数は、自動車 1 台当たり 2 人乗車として算出。ただし、バス、タクシーは含まない。



秋の観光期における市バスの待ち行列 (京都駅前)

(3) 京都市における公共輸送機関に対する社会的情勢の変化

- 路面電車が廃止された昭和53年当時は、自動車交通の急増により交通環境が変化したこと、維持費や人件費の高騰により財政が悪化したこと、地下鉄とバスを中心とした都市交通体系が政策として位置づけられたことが、時代背景としてあった。
- しかしながら、近年の公共交通を取り巻く環境は、自動車に過度に依存しない市民生活への転換の促進や地球環境に対する意識の高まりの一方で、技術的進歩による車両の性能向上が見られるなど、路面電車廃止時とは大きく変化してきている。

(4) 京都市において新しい公共交通システムの導入を検討する意義と必要性

- 京都市における大量輸送型公共交通機関である鉄道は、鉄道事業者ごとに異なるターミナルを持っていることから、鉄道間の結節が弱く、市内における鉄道による移動が難しい。
- 市内の主たる公共交通機関であるバスは、ピーク時における輸送力に限界があるとともに、道路混雑による定時性の悪化及び利便性の低下が、しばしば問題となっている。
- このため、京都市においては、「交通まちづくりプラン」に基づく、総合的な交通政策を進める中で、輸送力や経済性などを考慮した適切な輸送手段が求められており、下図のように鉄道・地下鉄とバスの中間の機能を有する中量輸送型の新しい公共交通システム導入の検討が必要である。

